

(平成 23 年)  
**「子ども手当の使途に関する調査」**  
**調査結果の概要**

**内容**

<b>I 調査概要</b> .....	1
<b>II 調査結果の概要</b> .....	3
1. 子ども手当の使途〔複数回答〕.....	3
2. 子ども手当の使途別使用（予定）金額.....	5
3. 使途を子どものために限定利用できない理由〔複数回答〕.....	6
4. 子ども手当の支給による家庭の変化〔5段階評価〕.....	7

# I 調査概要

## 1. 調査目的

子ども手当の支給対象者である、中学校3年生以下の子どもを持つ人を対象に、子ども手当の使途及び使途別の使用金額について調査を実施し、その実態を定量的に把握することを目的とする。

なお、昨年度も使途等に関する調査を行ったが、使途別の使用金額についての調査は、本調査が初めてである。

## 2. 調査対象

民間調査会社に登録されているモニターのうち、事前調査実施時点において、長子学齢が中学3年生以下の子どもと同居しており、家計の状況（日常的な支出額など）について把握している18歳以上の男女（10,000サンプル）

## 3. 調査方法

インターネットアンケート調査（事前調査1回、本調査全3回）

- ・ 事前調査：調査対象条件等の聴取・確認
- ・ 本調査：子ども手当の使途、使途別の使用金額等について、3回にわたり回答を得る（次ページ「調査及び集計のイメージ」を参照）

## 4. 調査期間

- ・ 事前調査：平成23年6月29日（水）～7月7日（木）
- ・ 本調査：【第1回】平成23年7月30日（土）～8月12日（金）  
【第2回】平成23年8月31日（水）～9月14日（水）  
【第3回】平成23年9月30日（金）～10月11日（火）

## 5. 主な調査項目

- 回答者及び同居する子ども、世帯の属性
- 子ども手当の使途
- 残った子ども手当の使い道（使途予定）
- 子ども手当の使途（予定）別使用金額
- 子ども手当の支給による家庭の変化

6. 【調査及び集計のイメージ】

調査回	調査項目		
第1回	・ 回答者等の属性		6月支給後～7月末日までの使用状況を回答
	・ 子ども手当の使途相談相手		
	・ 6月に支給された子ども手当の金額		
	・ 子ども手当の使途の有無（貯蓄・保険料目的以外に限定）		
	・ 子ども手当の使途（貯蓄・保険料以外に限定）〔複数回答〕		
第2回	・ 子ども手当の使途の有無（貯蓄・保険料目的以外に限定）		8月1日～8月末日までの使用状況を回答
	・ 子ども手当の使途（貯蓄・保険料以外に限定）〔複数回答〕		
	・ 子ども手当の使途別使用金額（貯蓄・保険料以外に限定）〔記述回答〕		
第3回	・ 子ども手当の使途の有無（貯蓄・保険料目的以外に限定）		9月1日～9月末日までの使用状況を回答
	・ 子ども手当の使途（貯蓄・保険料以外に限定）〔複数回答〕		
	・ 子ども手当の使途別使用金額（貯蓄・保険料以外に限定）〔記述回答〕		
	・ 子ども手当の貯蓄・保険料目的使途の有無		調査期間中（6月支給後～9月末日まで）の状況を回答
	・ 子ども手当の貯蓄・保険料目的使用金額〔記述回答〕		
	・ 子ども手当の使途予定〔複数回答〕 ※残額がある人が回答		調査期間中の実績に加え今後の予定も踏まえた状況 →P3～P6
	・ 子ども手当の使途予定別使用予定金額 ※残額がある人が回答		
	・ 使途を子どものために限定利用できない理由〔複数回答〕		今後の使用予定
・ 子ども手当の支給による家庭の変化〔5段階評価〕		P6	
		P7	

## II 調査結果の概要

### 1. 子ども手当の使途〔複数回答〕

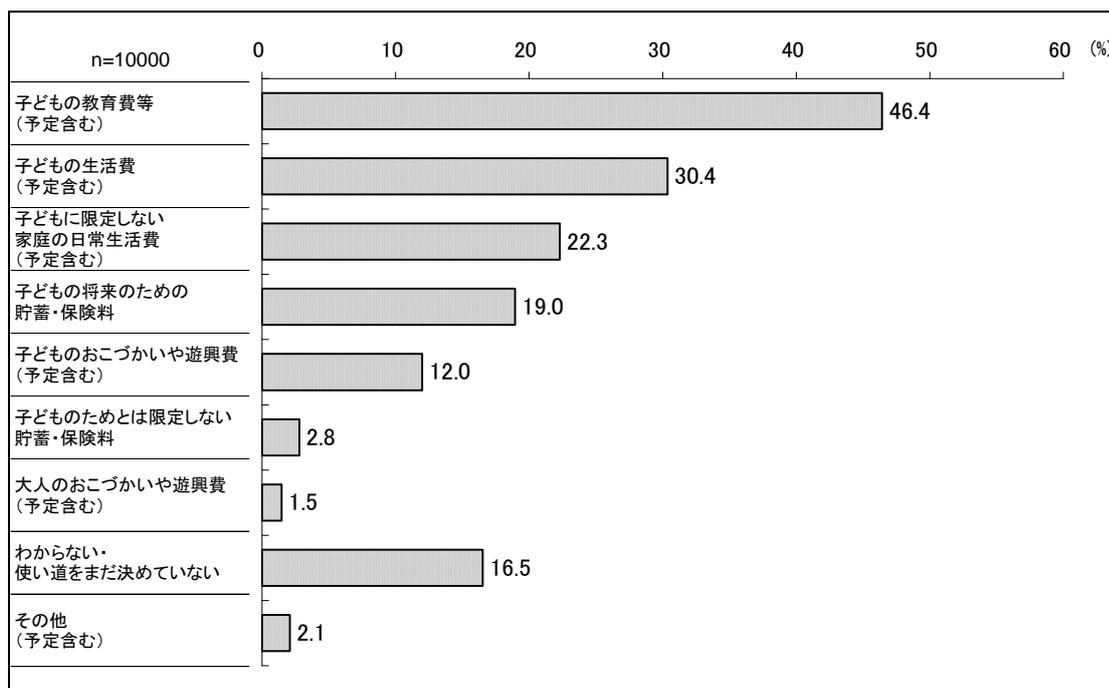
調査期間中（6月支給後～9月末日まで）に実際に使用した使途の状況に加え、調査期間中に1円以上の残額がある人に聞いた「今後の使途予定」の回答状況を踏まえた子ども手当の使途の状況。

（全体）

- ①「子どもの教育費等」 46.4%
- ②「子どもの生活費」 30.4%
- ③「子どもに限定しない家庭の日常生活費」 22.3%
- ④「子どもの将来のための貯蓄・保険料」 19.0%
- ⑤「子どものおこづかいや遊興費」 12.0%

「わからない・使い道をまだ決めていない」と回答した人は16.5%。

#### 子ども手当の使途（予定含む）〔複数回答〕



#### （一番上の子どもの学齢別）

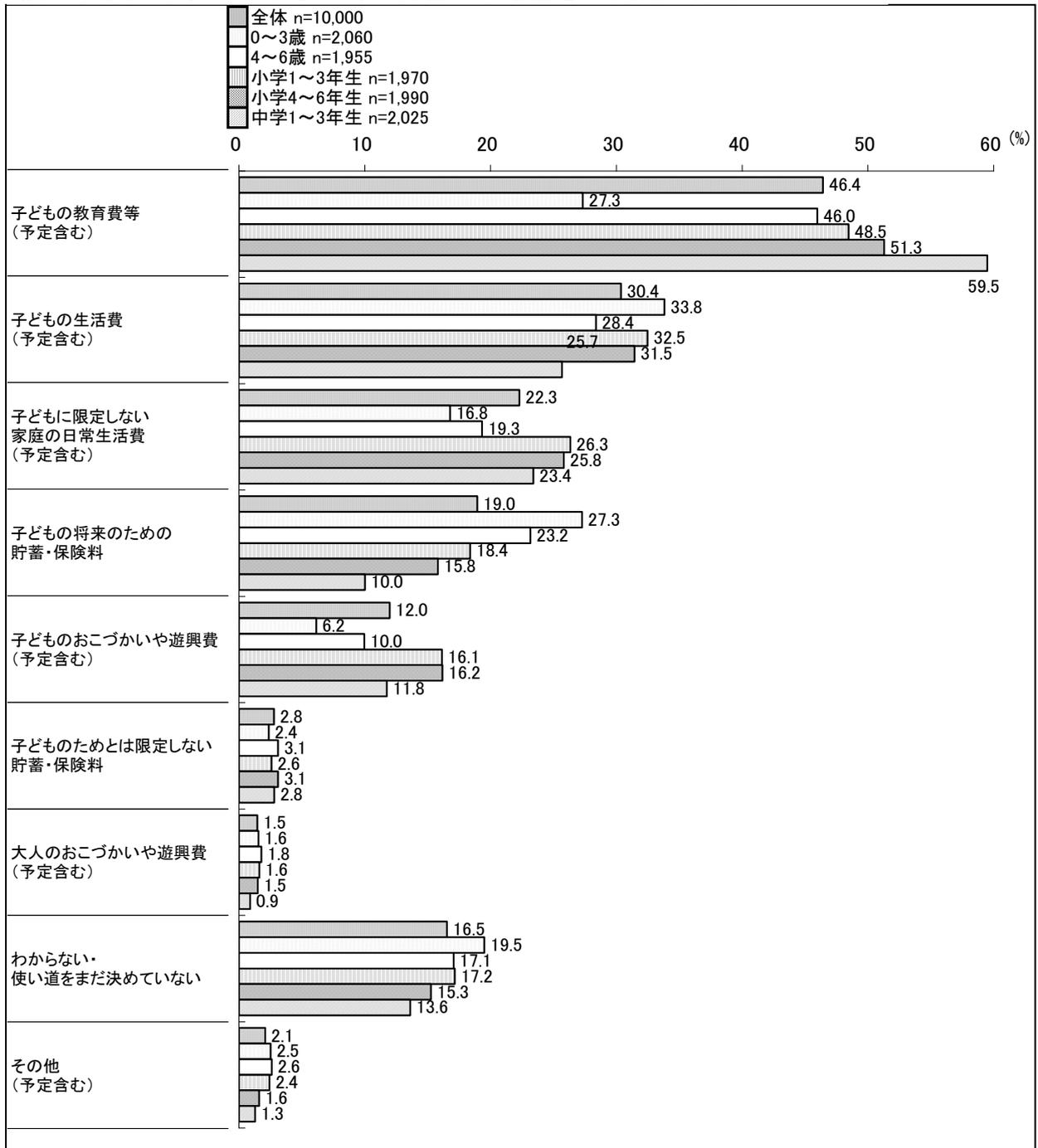
一番上の子どもの学齢区分別にみると、

- ・ 「子どもの教育費等」は学齢が高くなるにつれて回答割合が高くなる傾向（0-3歳 27.3%、4-6歳 46.0%、小1-3年生 48.5%、小4-6年生 51.3%、中学生 59.5%）。「0-3歳」を除く全ての区分で最も回答割合が高い。（「0-3歳」区分は「子どもの生活費」が33.8%で最も高い）
- ・ 「子どもの将来のための貯蓄・保険料」は学齢が高くなるにつれて回答割合が低くなる傾向（0-3歳 27.3%、4-6歳 23.2%、小1-3年生 18.4%、小4-6年生 15.8%、

中学生 10.0%)

- ・ 「わからない・使い道をまだ決めていない」は学齢が高くなるにつれて回答割合が低くなる傾向(0-3歳 19.5%、4-6歳 17.1%、小1-3年生 17.2%、小4-6年生 15.3%、中学生 13.6%)

長子学齢区分別の子ども手当の使途（予定含む）〔複数回答〕



## 2. 子ども手当の使途別使用（予定）金額

調査期間中に実際に使用した使途別の使用金額の状況に加え、調査期間中に1円以上の残額がある人に聞いた「今後の使途別使用予定金額」の回答状況を踏まえた子ども手当の使途別使用（予定）金額。

（全体）

- ① 「子どもの教育費等」 17,878 円（34.4%）
- ② 「子どもに限定しない家庭の日常生活費」 8,282 円（15.9%）
- ③ 「子どもの将来のための貯蓄・保険料」 7,936 円（15.3%）
- ④ 「子どもの生活費」 6,634 円（12.8%）
- ⑤ 「子どものおこづかいや遊興費」 2,372 円（4.6%）

「わからない、使い道をまだ決めていない」 6,893 円（13.3%）

なお、子どもに限定した使途に対する使用金額（下表の1,3,4及び5の合計）は34,820 円（67.1%）となっている。

※ 満額（13,000 円×4 か月分＝52,000 円）の支給を受けた人の平均使用（予定）金額を記載

### 子ども手当の使途別使用金額（予定含む）

n=10,000

	n	平均金額【全体】 （分布割合）	うち、満額（52,000円）の支給 を受けた人の平均金額 （分布割合）
1 子どもの教育費等	4,643	15,429 円（34.3%）	17,878 円（34.4%）
2 子どもに限定しない家庭の日常生活費	2,231	6,923 円（15.4%）	8,282 円（15.9%）
3 子どもの将来のための貯蓄・保険料	1,895	6,747 円（15.0%）	7,936 円（15.3%）
4 子どもの生活費	3,038	5,975 円（13.3%）	6,634 円（12.8%）
5 子どものおこづかいや遊興費	1,200	1,970 円（4.4%）	2,372 円（4.6%）
6 子どものためとは限定しない貯蓄・保険料	280	706 円（1.6%）	805 円（1.5%）
7 大人のおこづかいや遊興費	147	219 円（0.5%）	238 円（0.5%）
8 わからない・使い道をまだ決めていない	1,654	6,207 円（13.8%）	6,893 円（13.3%）
9 その他	209	830 円（1.8%）	961 円（1.8%）
計		45,007 円（100.0%）	52,000 円（100.0%）

(一番上の子どもの学齢区分別)

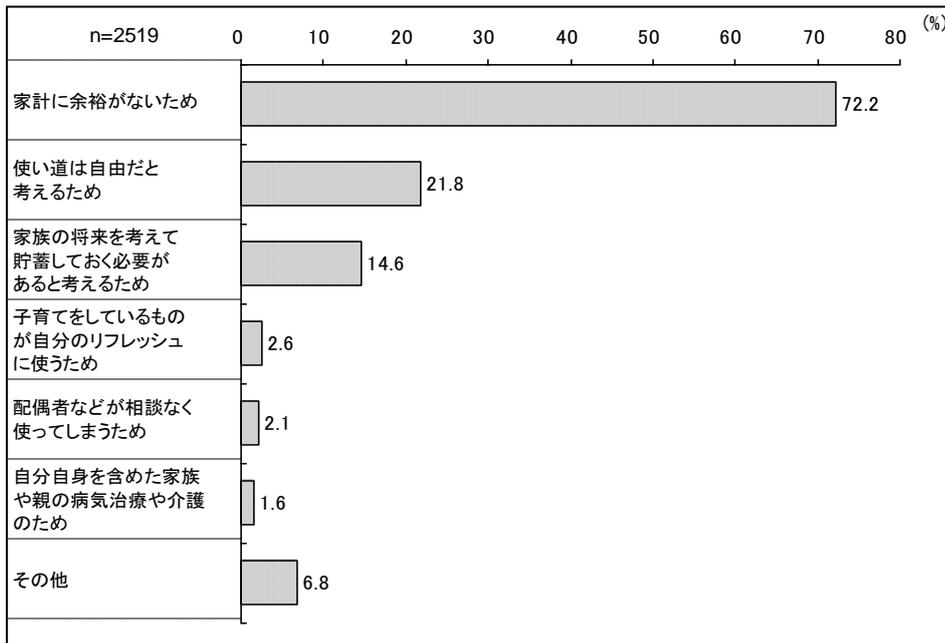
一番上の子どもの学齢区分別にみると、「0-3歳」を除く全ての区分で「子どもの教育費等」に対して最も多く使用され、その使用(予定)金額は、学齢区分が高くなるほど多くなっている。「0-3歳」区分では「子どもの将来のための貯蓄・保険料」が最も多い)

長子学齢区分別・子ども手当の使途別使用金額(予定含む) ※満額支給者

	0~3歳		4~6歳		小学1~3年生		小学4~6年生		中学生	
子どもの教育費等	②	10,613円 (20.4%)	①	17,719円 (34.1%)	①	16,845円 (32.4%)	①	18,772円 (36.1%)	①	24,998円 (48.1%)
子どもに限定しない家庭の日常生活費	⑤	6,521円 (12.5%)	④	7,033円 (13.5%)	②	9,544円 (18.4%)	②	9,510円 (18.3%)	②	8,721円 (16.8%)
子どもの将来のための貯蓄・保険料	①	12,874円 (24.8%)	②	9,930円 (19.1%)	③	7,581円 (14.6%)	⑤	5,734円 (11.0%)	⑤	3,818円 (7.3%)
子どもの生活費	③	9,601円 (18.5%)	⑤	6,042円 (11.6%)	⑤	6,189円 (11.9%)	③	6,455円 (12.4%)	④	5,089円 (9.8%)
子どものおこづかいや遊興費	⑥	1,386円 (2.7%)	⑥	1,675円 (3.2%)	⑥	3,097円 (6.0%)	⑥	3,451円 (6.6%)	⑥	2,204円 (4.2%)
子どものためとは限定しない貯蓄・保険料	⑧	683円 (1.3%)	⑧	803円 (1.5%)	⑧	640円 (1.2%)	⑦	899円 (1.7%)	⑦	992円 (1.9%)
大人のおこづかいや遊興費	⑨	275円 (0.5%)	⑨	289円 (0.6%)	⑨	267円 (0.5%)	⑨	185円 (0.4%)	⑨	174円 (0.3%)
わからない・使い道をまだ決めていない	④	8,697円 (16.7%)	③	7,380円 (14.2%)	④	6,871円 (13.2%)	④	6,245円 (12.0%)	③	5,374円 (10.3%)
その他	⑦	1,351円 (2.6%)	⑦	1,128円 (2.2%)	⑦	965円 (1.9%)	⑧	749円 (1.4%)	⑧	629円 (1.2%)
計		52,000円 (100.0%)		52,000円 (100.0%)		52,000円 (100.0%)		52,000円 (100.0%)		52,000円 (100.0%)

3. 使途を子どものために限定利用できない理由〔複数回答〕

子ども手当の使途(予定を含む)で、「大人のおこづかいや遊興費」「子どもに限定しない家庭の日常生活費」「子どものためとは限定しない貯蓄・保険料」のいずれか1つでも回答した人(2,519サンプル)から、子どものために限定利用できない理由について聞いたところ、「家計に余裕がないため」と回答した人の割合が極めて高く、72.2%。



#### 4. 子ども手当の支給による家庭の変化〔5段階評価〕

子ども手当が支給されることによる家庭の変化について

- ・ 「子どもの将来や子育てについて家族で話し合ったり考える機会が増えた」
- ・ 「子どもの意見を聴く機会が増えた」
- ・ 「子どもの数を増やす計画を立てた」
- ・ 「子どもの支援のあり方について考える機会が増えた」

の4項目で、あてはまるかどうかを5段階で評価してもらった。

「子どもの支援のあり方について考える機会が増えた」と考える人の割合は40.8%

「子どもの数を増やす計画を立てた」と考える人の割合は13.6%（計画を立てたと考えない人は59.2%）

	非常に あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	やや あてはまら ない	全く あてはまら ない	(%)	n
子どもの将来や子育てについて家族で話し合ったり考える機会が増えた	8.4	29.5	35.7	10.1	16.2		10,000
子どもの意見を聞く機会が増えた	4.5	15.7	39.9	14.2	25.8		10,000
子どもの数を増やす計画を立てた	3.5	10.1	27.1	12.4	46.8		10,000
子ども支援のあり方について考える機会が増えた	8.7	32.1	34.5	9.3	15.5		10,000

